

## 抗ヒト RAGE ポリクローナル抗体

RAGE : Advanced Glycosylation End product-specific Receptor

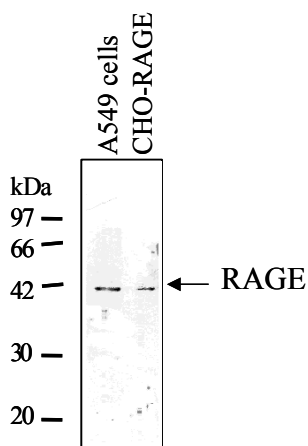
RAGE (receptor for AGEs) は、1992 年に Stern らによって牛肺から AGEs と反応性を示す分子量 35000 (SDS-PAGE 上では 42KDa) のタンパクであり世界で始めて AGEs の受容体としてクローニングされました。

以後の研究により、肺胞上皮細胞、血管内皮細胞、平滑筋細胞、腎メサンギウム細胞、赤血球、単球、神経細胞などで RAGE 分布が確認され、報告されているリガンドとして、AGEs の他に、アンフォテリン、EN-RAGE、CML 修飾タンパク、 $\beta$  アミロイド等があります。

RAGE は、VEGF を誘導し血管新生を導き、糖尿病性血管症の発症、進展に関与するといわれています。また、近年、 $\beta$ -アミロイドタンパクの神経細胞やミクログリア細胞上の受容体として機能し、アルツハイマー病の発症、進展に関与することが示唆されています。

本抗体は、ヒト RAGE に対する部分ペプチドをウサギに免疫して得られた抗体で、ウェスタンブロットに使用できます。

容量	100 $\mu$ g (400 $\mu$ L/vial)
形状	ウサギポリクローナル抗体 0.25mg/mL、凍結品
バッファー	PBS [2%ブロッカー(安定化蛋白)、0.1%proclin 含有]
保管方法	-20 $^{\circ}$ C以下 抗体を低濃度にて冷蔵保管されますと、失活する恐れがあります。 融解後は 4 $^{\circ}$ C で保存し、お早めにご使用下さい。 また凍結融解を繰り返すことは避けて下さい。
製造方法	ヒト RAGE に対する部分ペプチドをウサギに免疫し、得られた抗血清をプロテイン G カラムにより精製。
使用濃度	ウェスタンブロットティング: 2 $\mu$ g/mL



ウェスタンブロットティング

Sample: Cell lysates of

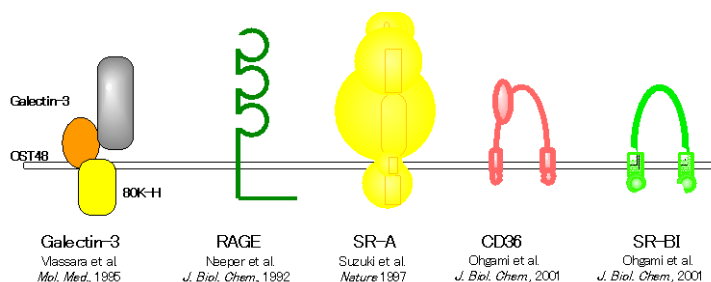
CHO-RAGE or A549 cells ( ヒト肺胞 II 型細胞 )  
(5  $\mu$  g/lane)

提供: 熊本大学医学部生化学第二講座  
堀内正公教授

## 抗ヒト RAGE ポリクローナル抗体

RAGE : Advanced Glycosylation End product-specific Receptor

### AGEs 受容体



#### 【参考文献】

1. Neeper M, Schmidt AM, Brett J, et al :Cloning and expression of a cell surface receptor for advanced glycosylation end products of proteins. *J Biol Chem* 267:14998-15004,1992
2. Schmidt AM, Vianna M, Gerlach M, et al :Isolation and characterization of two binding proteins for advanced glycosylation end products from bovine lung which are present on the endothelial cell surface. *J Biol Chem* 267:14987-14997,1992

製造元

**株式会社トランスジェニック**

〒650-0047 兵庫県神戸市中央区港島南町 7-1-14

TEL: 078-306-0295 FAX:078-306-0296

URL:<http://www.transgenic.co.jp>    [techstaff@transgenic.co.jp](mailto:techstaff@transgenic.co.jp)